

令和2年度第3回自転車等駐車対策協議会議事録

1 開催日時 令和2年10月19日（月曜日）午後2時～午後3時30分

2 開催場所 市役所12階 大会議室

3 出席者

【会長】	中部大学 工学部都市建設工学科教授	磯部 友彦
【委員】	国土交通省 名古屋国道事務所 事業対策官	岩田 成人
	愛知県春日井警察署 交通課長	前田 健策
	愛知県自転車モーター商協同組合	
	春日井支部 副支部長	安藤 公一
	かすがい女性連盟 会計	石原 美恵子
	春日井市区長町内会長連合会 副会長	松本 伸雄
	東海旅客鉄道株式会社管理部企画課 課長代理	豊田 智隆
	春日井市建設部 道路課長	荻谷 健生
【参考人】	春日井市総務部市民安全課 主査	伊藤 崇弘
	春日井市教育委員会事務局 学校教育課指導主事	篠原 秀麿
【事務局】	春日井市まちづくり推進部 部長	大島 常生
	春日井市建設部次長兼まちづくり推進部 次長	堀尾 朋宏
	春日井市まちづくり推進部都市政策課	
	課長	森 浩之
	課長補佐	三浦 晶史
	課長補佐	松浦 武幸
	主査	長谷川 正孝
	主査	津田 哲宏
	主任	深谷 祐也
	技師	菊池 滉記

4 議題

- (1) 協議事項 自転車活用推進計画（中間案）について（第4章～第5章）
- (2) 報告事項 春日井市内有料駐輪場使用料改定について

5 会議資料

- ・令和2年度第3回自転車等駐車対策協議会次第
- ・春日井市自転車等駐車対策協議会出席者名簿
- ・令和2年度第3回自転車等駐車対策協議会配席図
- ・資料1 春日井市自転車活用推進計画（中間案）
- ・資料2 春日市内有料駐輪場使用料改定（自転車等駐車場条例改正）
- ・別紙1 春日井市内有料駐輪場使用料改定表
- ・別紙2 協議会の今後のスケジュール

6 議事内容

- (1) 協議事項 自転車活用推進計画（中間案）について（第4章～第5章）

【事務局 長谷川】

資料1について説明を行った。

【磯部会長】

委員に事務局の説明に対する意見を求めた。

【荻谷委員】

36 ページ、路線の下図がないためどの路線かわかりにくい。また、黒で示しているネットワーク図が他と違うため、統一した方がよい。

56 ページは、1 ページに図が3枚あり見にくい。絵の大きさを大きいものに変えてほしい。また、事故が5年間で4件とあるが、どういう事故が発生しているか教えて欲しい。

61 ページ、65 ページにネットワークの形態の考え方と、ネットワーク整備形態案の記載がある。整備形態まで載せる必要があるのか。ネットワークの路線が分かる60ページだけでよいのではないか。整備形態は、将来道路管理者が設定することで良いか。ここに図面を載せる趣旨を教えてほしい。

【事務局 三浦】

36 ページ、56 ページは表現を工夫して記載する。

自転車事故については、18 ページの内訳として、5年間で2,000件のデータがあるが、おおむね自転車と自動車の事故は7～8割位、一番多い事故種別は交差点部の出会い頭での事故である。また、65 ページの整備形態案を載せる趣旨は、ガイドラインに基づく規制速度と交通量から機械的に割り振りした机上の整備案を示すものと考えている。

但し、実際に道路整備する際には、現状を加味したものになると考えており、実際の整備では変わることがあると理解している。

【磯部会長】

整備主体と整備形態を明確にするとより良いが、計画ではそこまで仕分けはできないのではないかと。計画ではネットワーク網を示しておき、具体的な道路整備は道路管理者で検討したいという意見だが、事務局はどのように考えているのか。

【事務局 三浦】

整備形態の基本方針として自転車活用推進計画には載せるものと考えている。

【事務局 森】

ガイドラインに基づいて機械的に分類した道路整備案を載せている。65 ページの整備形態別の路線図はガイドラインによる分類から整理したものである。整備方針を決定している様に感じるのであれば、「ガイドラインによる望ましい姿」と変更し、案として載せていきたい。

【荻谷委員】

現地を見たときに、交通量の多さや幅員の狭さなどにより自転車道を整備できないという状況が発生すると考える。その時には、ネットワークが変わることがあっても良いのか。また、路肩がなく現地が危ない場合には、ネットワークからもなくなってしまうても良いのか。現地を把握していない計画を作っても実際には整備形態がかなり変更となることが想定される。計画と整備のどちらが優先なのか。

【事務局 三浦】

計画のネットワークで必ずそのように整備するというものではないので、表現方法を再考する。

【磯部会長】

計画としては、このような形態が考えられるということだが、整備する際には変わる場合がある。整備側から見たときに、現地状況を踏まえた整備形態を今後検討する必要があるため、現状の表現で良いのか。

【事務局 森】

実際に設計をする際には、用地買収や大規模な工事が発生する場合もあり、整備形態の検討が必要であるが、基本的には、整備計画に基づいた進め方が望ましいと考えている。

【磯部会長】

65 ページに注釈をつけて、もう少し丁寧に書く必要がある。文言をしっかりと整理するというので良いか。

【事務局】

了解した。

【石原委員】

32 ページの目標設定について、計画全体の成果指標には担当のセクションを書いてほしい。

本計画は10年だが目標1と6に、3年後に目標を設定し順次見直すと書いてある。表現が分かりにくいのでこの趣旨を教えて欲しい。

道路は、国道と県道と市道があり、それぞれの管理者が整備していくわけなので、春日

井市は市道を整備すると明記した方がよい。自転車通行空間整備の目標値は 47.5km とあるが、60 ページに市道延長は 51.5 km と書いてある。51.5 km のうち 3 年間では 47.5km やりたいのか、分かりにくいので教えて欲しい。

来年度に工事発注するとしたら、自転車道、自転車専用通行帯、車道混在型の整備を 1 km 実施ときの費用について教えて欲しい。

【事務局 三浦】

指標の担当セクションについては、それぞれの計画を持っている課がわかるので表記を検討する。

自転車通行空間の整備は、国、県、市のそれぞれが主体である。市の計画ということで実施主体が市であるものは、記載を省略しているところがあるが、必要であるということであれば見直す。

費用については、現況や、整備方法、復旧方法などで変わるので、整備費用は把握していない。一般的には自転車道が一番高く、車道混在型が一番安く、通行帯がその中間という認識はしている。

指標 1 の自転車道の整備延長については、一旦 3 年の整備をして、その後の状況をみながら展開をしていきたいと考えている。また、指標 6 については、健康増進計画を参考にしており、5 年に 1 回の見直しで若干合わないところもあるが、計画が更新され目標値が見直された場合は、その目標値に置き換えて確認していく。その他の毎年指標を確認できるものに関しては、毎年確認していきたいと考えている。

【磯部会長】

評価時期、評価指標の出典について加筆されたい。

【事務局】

了解した。

【石原委員】

68 ページにある進捗管理の方法に関する説明が少ないと思うが、毎年確認するのであれば、5 年と 10 年で評価するのでなく、毎年確認していくということを具体的に記載した方が良い。

確認にあたっては、例えば、協議会に報告するのであればそのような手法をとることなど具体的に記載した方が良い。

【磯部会長】

PDCA のチェックについては、第三者がチェックすることが大事というのが良く言われている。

どのくらいの頻度で誰がチェックをしていくかの記載が無いと、分かりにくいがどう考えているのか。

【事務局 三浦】

チェックは、セルフチェックは毎年行い、指標の状況の確認を事務局で行う。セルフチェックをしたら、ホームページで公開するか、最終案までに検討していく。

大きなチェック（道路整備延長計画年、市民意識調査の公表年、健康増進計画の改訂年）

には、協議会、ホームページで公開するか、最終案までに検討していく。

【石原委員】

第4章に自転車ネットワークという言葉が出てくるが、その前にも何回も用いられている。しかし、自転車ネットワークが何なのかはどこにも記載が無い。

自転車ネットワークをひとつの言葉で説明することが必要だと思う。用語解説で記載する方法もあると思うが、初出のところなどに、小さな文字で用語解説を記載する方が良いと考える。ネットワークを表したものが、65 ページのネットワーク図であり、このような図をつくるのがこの計画と理解すれば良いのか。

【事務局 三浦】

ネットワークは、60 ページに記載した図がネットワークを表したものになる。

「自転車ネットワーク」という用語の解説については、分かりやすい表記となるように記載する。

本計画は、ネットワークをつくることは目的の1つであり、いかす、とめる、まもるの意味も含めた計画としている。

【磯部会長】

ネットワークという言葉が専門家の使う意味と、世間一般で使っている意味の意味合いがずれている。ここで、仮にネットワークという言葉を使わなかったらどのような表現になるのかということを検討して欲しい。

本計画で使われているネットワークには、駐輪環境や自転車通行空間など総合的なもののようにとらえられる。いろんな意味合いが入っているように思える。

だから、ネットワークの言葉の定義付けを丁寧に記載して欲しい。

【事務局 大島】

自転車通行空間や、自転車利用環境など、言葉の範囲を明確にまとめた上で、用語の意味を分かりやすく区別して使用する。

【磯部会長】

今回の計画で策定していくのは、まずは市民が自転車で安全に行き交うことができる空間を整備すること。それには、交通事故が多いところは対策を打ちたいという思いがある。

交通量など状況に応じて整備形態があるので、整備形態のみ先行して決めてしまうと、後々整備する際に困るとの意見もある。

整備形態を決めるには、計画と実際に整備する側の調整が必要であるので、その調整した結果を計画に入れるように整理し直していくこと。

今回は、ご意見を頂いたので、今日の意見を参考にして事務局で検討してもらい、中間案としてまとめること。まとめるにあたり、私もチェックするので、会長一任ということをお願いしたい。

【委員】

了承した。

【事務局】

各委員の意見を踏まえて整理する。

(2) 報告事項 春日井市内有料駐輪場使用料改定について

【事務局 菊池】

資料2について説明を行った。

【磯部会長】

委員に事務局の説明に対する意見を求めた。

【磯部会長】

自転車駐車場利用者から、適切な料金を徴収するべきで、経費を使用料金で賄えない部分は市が税金で過度に負担するのはよろしくない。その辺のバランスもあると思う。市はどの位の負担しているのか。

【事務局 松浦】

高蔵寺駅は指定管理者に預けているところであるが、現に赤字が出ている。新型コロナウイルス関係の影響を自転車駐車場も受けており、2割以上利用者が減っている状況である。

今後、高蔵寺駅周辺の整備を行うにあたり、建設費等もかかることから、利用者にも一定の負担が必要と考えた。

【磯部会長】

収入と支出のバランスの整理は必要。

【事務局】

了解した。

上記のとおり令和2年度第3回春日井市自転車等駐車対策協議会の議事の経過及びその結果を明確にするためにこの議事録を作成し、会長及び出席者1人が署名及び押印する。

令和2年12月24日

会 長 磯部 友彦

署名人 安藤 公一